留萌川流域治水プロジェクト（案）

第６回　留萌川流域治水協議会

留萌川流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第6回留萌川
流域治水協議会資料

〇令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、留萌川水系においても急激な水位上昇による被害軽減のための水田等の貯留機能有効活用にむけた調整等や避難等の対策を含む事前防災対策を進める必要があり、国管理区間においては、留萌川流域で甚大な被害が発生した戦後第2位の昭和56年8月洪水と同規模の洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の昭和63年8月洪水と同規模の洪水を下流市街部では安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 導流堤改築、河道掘削　　等
- 砂防関係施設の整備
- 農業用排水施設及び農用地整備等
- 水田等の貯留機能有効活用にむけた調整等
- 留萌ダムにおける事前放流等の実施、体制構築等
- 農地防災ダムの機能保全
- 森林整備等
- 治山対策

■被害範囲を減少させるための対策

- ハザード情報を活用した土地利用等の調整・検討
- まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討

■グリーンインフラの取り組み　詳細次ページ

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 関係機関で連携した避難場所等整備検討
- 関係機関による流域タイムラインの作成
- 防災教育等の実施
- 水防意識啓発のための広報の充実
- ハザードマップ等の作成更新と利用促進
（水災害リスク情報空白地の解消にむけた取組み）
- 土地等の購入にあたっての水災害リスク情報の提供
- 支援および受援活用の強化
- マイ・タイムラインの作成
- 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進等
- 自主防災組織の充実、強化
- 防災情報伝達手段の整備検討、充実
- 排水作業準備計画の作成
- 防災気象情報の利活用促進　等

※イメージ

市街地等を土石流から守る砂防関係施設の設置
（留萌振興局）

【位置図】

下流市街部の被害を軽減する
導流堤改築（留萌開発建設部）

マイ･タイムラインの作成
（留萌市）

水田の貯留機能確保のための農地整備
（留萌振興局、留萌市）

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

留萌川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第6回留萌川
流域治水協議会資料

●留萌川水系では、流域全体を俯瞰し、国、道、市が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進し、合わせて、水位上昇が早く速やかな避難対応等が必要となる流域の特性を踏まえ、関係機関で連携した避難場所等整備検討、流域タイムラインを作成し、迅速かつ確実な広域防災連携にむけた体制作りを実施。

【短　　期】 下流市街部等での浸水被害を軽減するため、導流堤改築等を推進。
【中　　期】 導流堤改築、河道掘削を実施し、下流市街部等での浸水被害を軽減させるとともに留萌川中上流部の河道掘削等を実施。
【中 長 期】 留萌川中上流部での浸水被害を軽減させるため、河道掘削等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

区分	対策内容	実施主体	工程 短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下流市街部域の被害を軽減する導流堤改築・河道掘削等	留萌開発建設部	導流堤改築	河道掘削等	
	留萌川中上流部の被害を軽減する河道掘削等	留萌開発建設部			河道掘削等
	タルマップ川流域の被害を軽減する河道掘削	留萌振興局		タルマップ川河道掘削等	
	市街地等を土石流から守る砂防関係施設の整備	留萌振興局	砂防関係施設の整備		
	湛水被害を軽減し、機能を守る農業用排水施設及び農用地整備等	留萌振興局、留萌市		農業用排水施設および農用地整備	水田等の貯留機能有効活用にむけた調整
	森林の水源涵養機能の維持・向上のための森林整備等	留萌振興局、留萌市等、留萌南部森林管理署			植栽・間伐等の森林整備
	山地災害から流域を守る土砂災害対策	留萌振興局、留萌南部森林管理署			治山施設等の整備
被害範囲を減少させるための対策	まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討	留萌開発建設部			
	ハザード情報を活用した土地利用等の調整・検討	留萌市			避難場所等整備（着手）（河道掘削土砂を利用）
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	関係機関で連携した避難場所等整備検討	留萌開発建設部、留萌振興局、留萌市		連携した避難場所等の整備検討	
	要配慮者利用施設の避難確保の計画作成促進等	留萌市			流域タイムラインに基づく広域防災連携
	被害軽減対策	留萌開発建設部、留萌振興局、留萌市旭川地方気象台		流域タイムラインの作成	
グリーンインフラの取り組み	瀬、淵等に配慮した河道掘削の実施、魚類や鳥類の生息・生育環境の保全	留萌開発建設部 留萌振興局		瀬、淵等に配慮した河道掘削の実施 魚類や鳥類の生息・生育環境の保全	
	小学校などにおける河川環境学習（幌糠水辺の楽校）、河川協力団体によるやまべの稚魚放流	留萌開発建設部			小学校などにおける河川環境学習（幌糠水辺の楽校） 河川協力団体によるやまべの稚魚放流

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※スケジュールは今後の事業進捗等によって変更となる場合がある

【事業費】

■事業規模
河川対策（約１０４億円）
対策内容　堤防整備、河道掘削等
砂防対策（約６億円）
対策内容　砂防関係施設の整備
※１：国・北海道の河川整備計画の残事業費を記載
※２：北海道による砂防事業の残事業費を記載

留萌川流域治水プロジェクト【位置図】

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第6回留萌川
流域治水協議会資料

○流域の大部分が山地で占められる留萌川は自然の軸、緑の帯として地域の自然環境の基盤を形成しているほか、豊かな水辺の生態系や連続する緑のコリドーとして、生物の貴重な生息・生育環境を提供している他、河川を横断する構造物がなく、水際まで植生が繁茂する自然的景観を有する箇所も多いことから、魚類等の生息しやすい河川である。
○留萌川はサクラマス等の魚類や鳥類が自然環境で着目すべき種とされており、生物種の生息・生育環境に留意し、今後約9年間で瀬、淵などの再生によりこれら生態系に必要な生息・生育環境への影響軽減を図るなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

●グリーンインフラの取り組み　『地域の自然環境の基盤を形成している留萌川水系の生態系に必要な瀬・淵などの再生』

■グリーンインフラメニュー

●治水対策における多自然川づくり
- 瀬、淵等に配慮した河道掘削の実施
- 魚類や鳥類の生息・生育環境の保全

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み
- 小学校などにおける河川環境学習（幌糠水辺の楽校）
- 河川協力団体によるやまべの稚魚放流

【全域に係る取組】
- 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援。
- 魅力的な水辺空間のＰＲや水辺利活用を促進し、地域振興を図る（かわたびほっかいどう）。

【位置図】

凡例
- 治水メニュー
- 市街地
- 国道
- 高規格幹線道路
- JR線
- 大臣管理区間

干潟の保全イメージ

干潟の保全

水辺空間の利活用促進（るもい川まつり）

生物種の生息・生育環境の保全

河川環境学習

樽真布ダム
中幌ダム
タルマップ川
留萌ダム
深川留萌自動車道
JR留萌本線
日本海
るもいがわ
留萌川
大和田遊水地
るもいし
留萌市
留萌川圏域
河川整備
下流市街部
中上流部

河道掘削
干潟の保全
魚類や鳥類の生息・生育環境を保全
河道掘削
河道掘削
魚類や鳥類の生息・生育環境を保全
やまべの稚魚放流
幌糠水辺の楽校
河川環境学習
河道掘削等
魚類や鳥類の生息・生育環境の保全

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

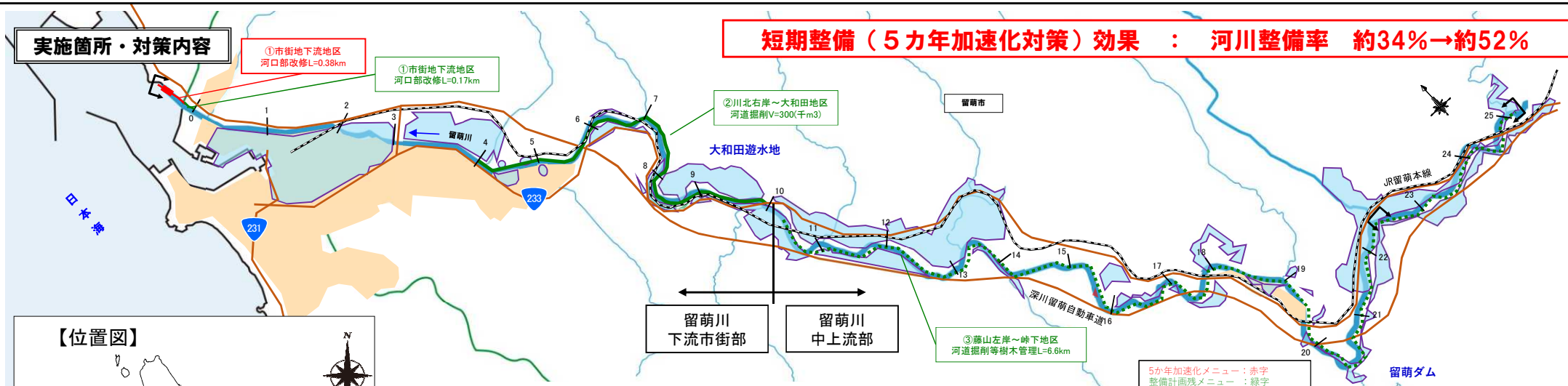
留萌川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第6回留萌川
流域治水協議会資料

○市街地下流地区における河口部改修（導流堤改築、河道掘削）を推進することで、留萌市街地の治水安全度の向上に寄与

実施箇所・対策内容



短期整備（５カ年加速化対策）効果　：　河川整備率　約34%→約52%

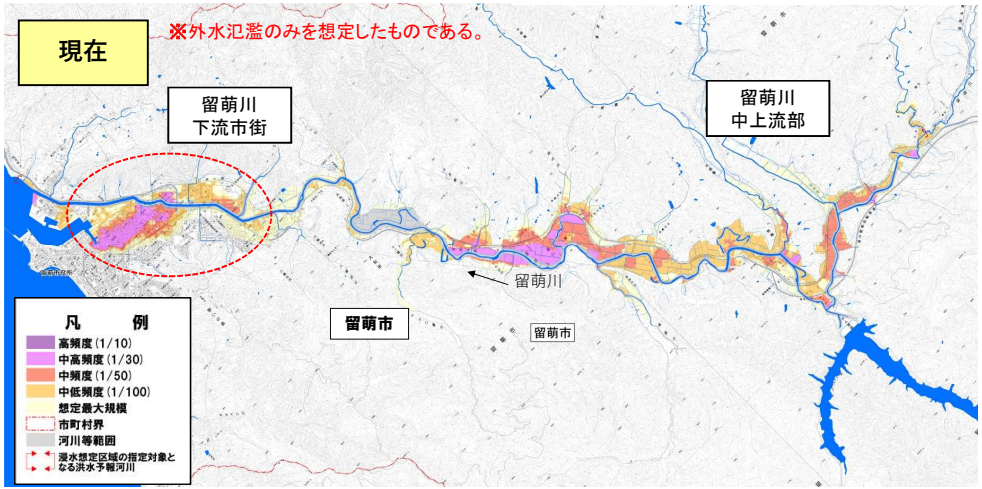
【河川整備率　約34%→約52%】

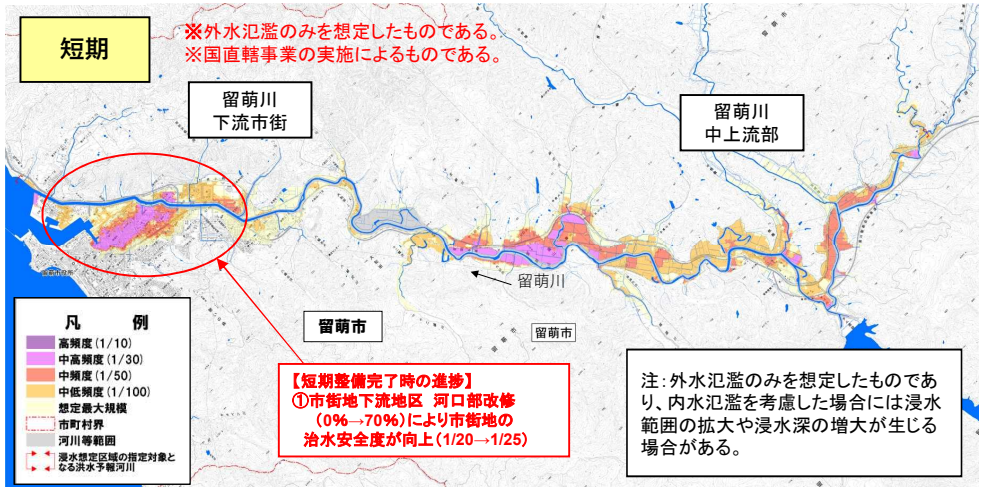
区分	対策内容	区間	工程 短期(R3~R7年度) 1/20~1/25	工程 中期(R8~R10年度) 1/25~1/60※
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河口部改修 8%→100%	①地区（市街地下流）	70%	100%
	河道掘削 3%→100%	②地区（川北右岸～大和田）		100%
	河道掘削等 56%→100%	③地区（藤山左岸～峠下）		100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

※大和田基準地点における安全度

【短期整備完了時の進捗】
①市街地下流地区　河口部改修　70%





留萌川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第6回留萌川
流域治水協議会資料

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）

整備率：52%

（概ね５か年後）

農地・農業用施設の活用

1市町村

（令和３年度末時点）

流出抑制対策の実施

0施設

（令和２年度実施分）

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策

治山対策等の実施箇所 2箇所

（令和３年度実施分）

砂防関連施設の整備箇所 0施設

（令和３年度実施分）

立地適正化計画における防災指針の作成

0市町村

（令和３年12月末時点）

避難のためのハザード情報の整備

洪水浸水想定区域 1河川

（令和３年12月末時点）

内水浸水想定区域 0団体

（令和３年11月末時点）

高齢者等避難の実効性の確保

避難確保計画 洪水 34施設

土砂 5施設

（令和３年９月末時点）

個別避難計画 1市町村

（令和４年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

導流堤改築、河道掘削

（留萌開発建設部）

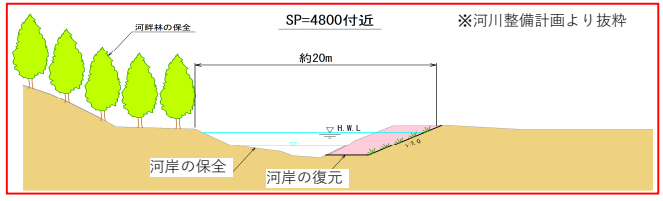
河道掘削

（留萌振興局）

※イメージ

■平成30年7月の豪雨により浸水被害が発生したことからタルマップ川においてL=9.5km区間の河道掘削。

R3年度は工事のための調査を実施。



被害対象を減少させるための対策

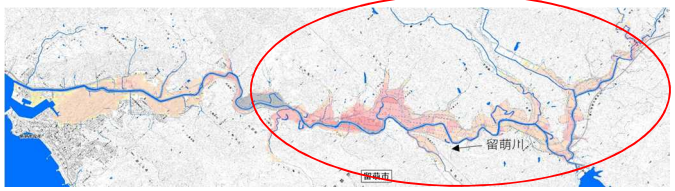
ハザード情報を活用した土地利用等の調整・検討

○新たな公共施設の整備にむけた候補地選定などの協議に既存のハザード情報を活用。
○洪水ハザードマップについて、要配慮者利用施設へ周知
○今後はリスクマップの活用も予定。

※（留萌市公共施設整備検討会議　より：R3）

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

※留萌川中上流部

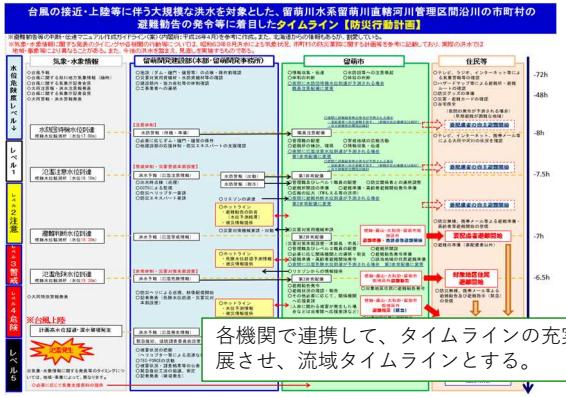


関係機関で連携した避難場所等整備検討

○特に留萌川の中上流部は、ほぼ全域にわたって浸水域となることから、河道掘削等で発生する土砂も活用し、避難場所等を安全に確保するために関係機関で連携して検討する。

関係機関による流域タイムラインの作成

○山地に挟まれた地形を流下するため、洪水時は流域の水位上昇が非常に早く、早期に避難困難な水深に達する恐れがある。関係機関で連携して、迅速、確実な避難行動、社会経済被害の最小化を図るために流域タイムラインを作成する。



各機関で連携して、タイムラインの充実、発展させ、流域タイムラインとする。